

学校図書館部会報 No. 34

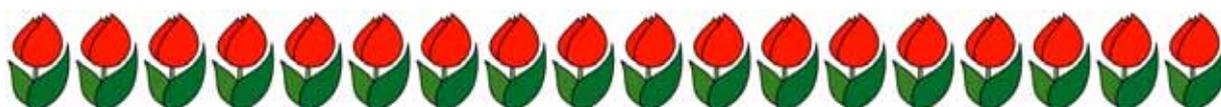
- 部会総会ご案内号 -

発行日：2010年4月14日

発行者：日本図書館協会 学校図書館部会（部会長：高橋恵美子）

連絡先：〒252-0318 神奈川県相模原市上鶴間本町6-7-3-303

TEL 042-743-1449（ファクシミリ共） E-Mail: gakutobukai@jla.or.jp



目 次	ページ
1. 夏季研究集会東京大会 講師決定	2
2. 学校図書館部会総会のお知らせ	2
2-1. 学習会のご案内	
2-2. 2009年度活動報告(案)	
2-3. 2010年度事業計画	
3. 夏季研究集会東京大会のご案内	5
4. メーリングリストで紹介された新聞記事	5
5. 会員の広場	
「第6回学校図書館ジャムセッション 探究的で拡張的な学びに学校図書館はどうかかわるか？」参加報告	6
2009年度 子どもに豊かな育ちと読書のよるこびを 第10回学校図書館・公共図書館の充実を求めるつどい in 京都参加報告	7
第3回日本図書館協会九州地区図書館の集い「子どもでつながる、未来とつながる；学校図書館、公共図書館、大学図書館の連携とその可能性」参加報告	9
6. 幹事会からのお知らせ	12

1 . 夏季研究集会東京大会 講師決定！

辻 由美 (つじ・ゆみ) 氏

フランス翻訳家・作家。主な著書 『翻訳史のプロムナード』 (1993、みすず書房) 『世界の翻訳家たち』 (1995、新評論、日本エッセイストクラブ賞) 『図書館で遊ぼう』 (1999、講談社現代新書) 『読書教育；フランスの活気ある現場から』 (2008、みすず書房) など多数。

図書館利用者の立場から、フランスのさまざまな図書館活動や読書活動を紹介、講演活動をしている。この3月25日には、訳書『フランスの公共図書館 60のアニメーション：子どもたちと拓く読書の世界』 (教育史料出版会) を刊行した。

2 . 学校図書館部会総会のお知らせ

下記の通り学校図書館部会の2010年度総会を開催いたします。報告・提案事項の他、全国部会員の交流を図り、部会の活動について話し合います。

また総会の午前中に「授業に役立つ学校図書館活用データベース」についての学習会を企画いたしました。ぜひご参加ください。

部会運営にとって大切な総会です。万障お繰り合わせの上、多数ご出席くださるようお願いいたします。

2 - 1 . 2010年度部会総会および学習会のご案内

日時：2010年5月22日(土) 14:00~16:30

場所：日本図書館協会2階研修室

〒104-0033 東京都中央区新川1-11-14

<http://www.jla.or.jp/kaikan.htm>

10:30~	学習会受付(予約不要)
11:00~12:30	学習会「授業に役立つ学校図書館活用データベース」 東京学芸大学 学校図書館運営専門委員会 中山美由紀氏、村上恭子氏
12:30~13:30	休憩(昼食の手配はいたしません)
13:30~	総会受付
14:00~16:00	総会
16:00~17:00	第1回 幹事会(会員はどなたでも参加できます。)

2 - 2 . 2009 年度活動報告 (案)

1 活動の総括

夏季研究集会の開催、報告集作成を行った。課題である学校図書館員の専門性を探る活動は、さまざまな視点からの情報交換、実践交流などにより深められた。地域ブロック集会は「第3回日本図書館協会九州地区図書館の集い」を部会の地域ブロック集会と位置付けた。

学校司書の非正規職員化の問題など学校図書館の抱える多様な課題に関して、各自治体教育委員会あてに文書送付を行った。

2 事業内容

事業、活動、シンポジウム、集会等

・第38回夏季研究集会

テーマ：学校図書館員の専門性を探る Part2

開催日：8月7日、8日 会場：法政大学市ヶ谷キャンパス 参加者：111名

・第3回日本図書館協会九州地区図書館の集い

テーマ：子どもでつながる、未来とつながる

- 学校図書館、公共図書館、大学図書館の連携と可能性 -

開催日：1月31日 会場：福岡県立図書館レクチャールーム

刊行物（報告書、資料、パンフ、ポスターなど）

部会報 32 33 34

第38回夏季研究集会東京大会報告集

Web サイト、メーリングリストの運営内容

Web サイト：部会からのお知らせ、部会報、幹事会議事録など

メーリングリスト：幹事、幹事及び部会員希望者

その他

・各自治体教育委員会宛の「お願い」文書の送付

京都、長野、神奈川（4月28日付）、東京（8月28日付）、大阪（12月10日付）

・実践事例集準備作業

・公立高校図書館職員実態調査 用紙の作成

3 幹事会等の開催、出席率

開催回数：6回 幹事の出席率：60%

4 部会活動全体に関する自己評価 達成度：90%

2 - 3 . 2010 年度事業計画

3月17日第32期2009年度第2回評議員会において承認。

学校図書館に関する部分のみ抜粋

1 計画の基調と重点課題

(略)

(2) すべての館種の図書館員の雇用の安定を求め、その専門性の蓄積を図る。

非正規雇用の図書館員が6割を超える実情は、将来にわたる図書館事業の基盤の脆弱化につながることは明らかである。この現実を見据え、その基盤強化につな

がる方策を追究することが肝要である。(略)

また不安定雇用の図書館員を対象とした研修や交流の機会を、協会会員の協力を得て、各地で実施することは、図書館事業の基盤強化に資することとして捉え、取り組むことが必要である。

2 2009年度事業の進捗状況

2.1 図書館振興

(略)

(3) 図書館職員の非正規雇用、採用

- ・学校図書館部会は、京都、長野、神奈川、東京、大阪の都道府県教育委員会に対して、学校司書の採用を求める要請を行った。

(略)

(11) 資料費

(略) 学校図書館部会は、高等学校への地方交付税措置などを求める取組みをした。

3 2010年度の主な課題

3.1 図書館振興の課題

(略)

(7) 資料費の増額

図書館の資料費はすべての館種にわたって減額傾向にある。(略)2000年代当初220億円を超えていた公立学校の図書購入費も196億円に減額となり、90年代初頭の水準に戻った。

- ・公立図書館、学校図書館の資料費についての地方交付税措置の積算基礎は図書のみとなっている。逐次刊行物、電子媒体、データベースなど図書館が扱う資料・情報源のすべての経費を対象とするよう改善を要求する。また高等学校図書館も対象とする。

3.2 図書館員の雇用の安定、専門性の蓄積

図書館を支える図書館専門職員はすべての館種にわたって極めて不安定な状況にある。公立図書館、大学など高等教育機関で働く職員はいずれも非正規雇用が6割である。学校司書が配置されている学校は4割であるが、その7割は非常勤である。(略)学校司書の活動をマスコミが採り上げるなど、従来に増して関心を集め、また学校司書の法制化を考える動きもある。

(略)

3.4 部会・委員会の主な事業計画

(略)

<部会> (4) 学校図書館部会

- ・第39回夏季研究集会の開催 8月6~7日
- ・地域ブロック集会の開催
- ・部会報の発行 年3回程度
- ・実践事例集作成のための準備作業
- ・学校図書館職員実態調査(高校)
- ・全国図書館大会分科会は他の部会、委員会等と共催

<委員会> 図書館利用教育委員会

- ・「図書館利用教育ハンドブック：学校図書館版(仮称)」の編集・発行

3. 夏季研究集会東京大会のご案内

テーマ 学校図書館員の専門性を探る 3 - 読書を考える -

日時 2010年8月6日(金)～7日(土)

会場 東京・法政大学市ヶ谷キャンパス外濠校舎S406号室

内容 8月6日午後 講演 辻由美氏
 著書と講演者の紹介は本誌 p. 1 をご覧下さい。
 8月7日一日 報告1 吉田倫子氏(横浜市立中央図書館司書)
 清野愛子氏(荒川区立図書館司書)
 報告2 鈴木淑博氏(慶応普通部教諭)
 報告3 勝山万里子氏(茨城県立佐和高校司書)
 講演者、報告者によるシンポジウム(予定)

例年とおり、昼食・宿泊の手配はいたしません。
 申込書は次号(No. 35)に同封いたします。

4. メーリングリストで紹介された新聞記事

日付	紙名	ページ	執筆者(敬称略)	再掲
2009.11.18	朝日新聞	私の視点	小袋朋美	ぱっちわーく No. 199
2009.11.3	朝日新聞	社説		ぱっちわーく No. 198
2009.12.13	上毛新聞	視点オピニオン 21	太田克子	ぱっちわーく No. 200
2009.12.2	読売新聞	論点	肥田美代子	
2009.4.22		全国学力調査		中学・国語Bに「子供図書館案内図」の設問
2009.5.4	朝日新聞	声		
2009.9.24	静岡新聞			ぱっちわーく No. 198
2010.1.25	読売新聞	夕刊		学校図書館活用大作戦；教研集会で報告；生徒の好きな本を購入 50冊読破の児童に拍手
2010.2.6	毎日新聞	社説		読書感想文；対話育成力につながる
2010.2.9	上毛新聞	視点オピニオン 21	太田克子	ぱっちわーく No. 202
2010.3.1	毎日新聞	メディア事情	清田義昭	読書環境の整備を

5. 会員の広場

お詫び

報告は33号に掲載するために受領しておりましたが、編集者の連絡ミスにより今回になってしまいました。時期を逸した点をお詫びいたします。

「第6回学校図書館ジャムセッション 探究的で拡張的な学びに学校図書館はどうかかわるか？」 参加報告

櫻蔭中学高等学校・図書室 具島美佐子

期日：2009年8月10日(月)～11日(火)
会場：群馬県立尾瀬高等学校
<http://www.oze-hs.gsn.ed.jp>

はじめに

新学習指導要領の実施にむけて、今回のジャムセッションでは「探究」が取り上げられ、児童・生徒の成長過程に学校図書館はどのように関わることが可能か、高校生(3名)も参加して討議が行われた。

基調講演他

関西大学教授の山住勝広氏は「探究的で拡張的な学びのプラットフォームを築く」という演題で、学校教育の役割は周囲の社会の活動を転換してゆく点にあることを力説された。また東京学芸大学の成田喜一郎氏との対談「持続可能な開発のための教育(ESD)と学校図書館の使命」が行われた。

実践報告

慶応普通部の庭井史絵氏は「プロジェクト型の個人研究「労作」を支える司書教諭」という報告で、探究型学習活動と

しての「労作」には「自己活動と手工的活動」の両立という意義があると述べられた。さらに「労作」に携わった生徒にも会場で発表をさせた。

他に尾瀬高校、関西大学、神奈川県立相武台高校からの実践報告があった。

ポスターセッション

尾瀬高校の生徒が「ミジンコ～耐久卵～」、「天気を予測する」というテーマで、自立的な学習の成果を掲示していた。他に参加者からの探究的学習への独自の取り組みが掲示されていた。

おわりに

探究的・拡張的な学習のために、学校図書館の進むべき道が模索され、大変有意義であった。しかし学校が社会生活と有機的に関わることが必要であることは既にジョン・デューイによって指摘されており、図書館も社会と有機的に関わることで、学校教育の支援が可能となるのである。

5. 会員の広場

2009 年度 子どもに豊かな育ちと読書のよろこびを 第 10 回学校図書館・公共図書館の充実を求めるつどい in 京都 参加報告

群馬県立高崎商業高校 司書専門員 太田克子

2010 年 1 月 11 日 (月) 10:30 ~ 16:30 京都
テルサに、全国から 164 名が参加した。

開会あいさつ

篠崎さん (読書のつどい実行委員会) 中川
康弘さん (京都実行委員会)

図書館は、本の提供のみでなく、子ども
を含むすべての国民に対して、どこまでも
能力を伸ばし、人格の完成を図る役割を担
っています。豊富な実践を学び、交流し
ましょう。豊富な実践を学び、交流しよう。

基調講演

「子どもの本を結ぶー学校図書館・公共図
書館の役割と未来」

協谷 邦子先生 (同志社大学)

子どもたちの読書の要求に、子ども向け
の本だけでなく大人の本も提供することが
必要である。そして、環境問題でも経済の
問題でも、大きく社会変化が起きている今、
自分で考え、情報収集し、処理する力を育
てなくてはならない。グローバル化が進み、
今まで遭遇したことのない社会を、子ども
たちは、世界の人々と協力して打開してい
かなければならない。そのために、今こそ
図書館が重要だ。しかし、生活も落ち着か
ないことやテレビ・携帯電話が、子どもを
読書から遠ざけている。読ませようと本を
置くだけでは、本を読まない。子どもに話
しかけ、人と本をつなぐ人が必要なのだ。
人を育てるのは人だ。人の育ちには、多く
の人が関わること。

図書館をよくするには、学校図書館も
公共図書館も、正規職員も非正規職員も理
解し合って、協力し合うことだ。

全体報告

1. 学校や保健所と連携した公共図書館の 活動

大島由美子さん (名古屋市) 千種図書館
司書)

子どもの読書に関する法律の制定が、大き
な後押しとなって、

(1) 学校と連携

学校訪問 (ブックトークやおはなし
会) 118 校 1040 クラス 652 回

図書館見学 (おはなし会、図書館見学、
利用案内) 99 校

体験学習 (統計はいずれも 2008 年度)

団体貸出 希望に応じ 1 校 300 冊 3 ヶ
月間

(2) 保健所と連携

保健所の事業 (子育てサロン、子育て
教室等) 参加

保健所乳幼児検診時に絵本の紹介冊子
配布

保健所乳幼児検診でおはなし会

(ボランティア養成講座を開催、順次実
施)

(3) 名古屋市子ども読書推進活動計画

- ・「子どもが選ぶ 100 冊キャンペ
ーン」

- ・子ども図書館大使任命

- ・「子ども読書週間」記念行事

- ・参加型ホームページ創設

- ・中・高校生向けメールマガジン

- ・ブックホスピタルの創設

- ・公共図書館蔵書検索の端末を学校図
書館に設置 など

2. 「学校図書館レポート集 2」の発行で
学校司書のはたらきを発信

祇園咲子さん(岡山市立)石井中学校
司書)

2006年「学校図書館レポート集」発行。
市民に分かりやすく伝えた。

2010年「学校図書館レポート集 2」発行。
変わってきた学校図書館の活動とさらに、
先生、ボランティアや利用者の視点を加え
た。

活動の状況が見える形にできたこと、保
護者とのネットワークなど成果を上げた。

《今年度の岡山市の取り組み》

・「子ども読書の日フェスティバル」では
1000人の参加

・尾木直樹氏講演会

・「おはなしおとどけ隊」市内11カ所の
児童館や高齢者施設での実施

・語りのネットワーク結成

・プレ国民文化祭でパネルシアター実演

・岡山市小・中学校校長会長を訪問し、実
践等紹介

・学校図書館充実検討委員会

・学校司書全員学習会

・岡山市子ども読書活動推進の会

・『学校図書館白書 3』

・市民と協同で「市民の提言」を作成
など多数

今後は、ブックレットを通じて学習会を
開き、他の運動とリンクする。

分科会

第1分科会 「図書館で」育つ子どもたち

；公共図書館や学校図書館の実践を通して
司書の必要性や配置について考える

I. レポート

(1) 京都府立鴨沂高校図書館

新入生オリエンテーション

読書活動支援(リクエスト・ブ
ックハンティング)

学習活動支援

授業利用・協力貸出

図書委員会活動支援

(2) 児童サービス 京都府精華町立図書
館

- ・児童書コーナーの充実
- ・ティーンズコーナーの設置
- ・子どもの読書活動推進計画策定
- ・行事 おはなし会 ブックスター
ト
- ・図書委員会活動支援
- ・子ども絵手紙コンテスト
- ・社会見学・体験学習
- ・移動図書館車を小学校に乗り入れ
- ・団体貸出 14460冊
- ・小学校でブックトーク
- ・学校図書館ボランティア向け講習
会
- ・「図書の修理・製本講習会」
- ・学校支援地域本部事業による嘱託
職員配置 等

II. 交流

発表内容について、質問や、全国の活動、
実践などが紹介され、活発に意見交換
がなされた。

特に、市民や保護者、校内の教員に対し
て等説明するのに、「学校司書が学校にい
ると、どんないいことがあるのか」という
質問には、たくさんの回答がなされた。正
に、学校司書だけでない、いろいろな立場
の方々がつどい、子どもたちの読書を保障
し、豊かな学びを支える仕組みを考える話
し合いだった。

第2分科会 「いま、図書館があぶない；
市場化テスト、指定管理者制度、予算削減、
統廃合など、さまざまな問題をどうとらえ、
どうすればいいのかを考える」

レポート 東京都目黒区図書館 / 大
阪府職労教育支部

第3分科会 「図書館の職員問題—非正規
職員、派遣・嘱託職員の増加などの現状か
ら、公共図書館・学校図書館の職員問題を
考える」

レポート 大阪府立茨田高校 / 京
都市立図書館

全体会 意見交換

各分科会の報告。活発な意見交換。

閉会あいさつ

後藤暢さん（読書のつどい実行委員会）
 子どもたちのために、図書館をもっと豊かにしていかなければならない。市民も図書館員も、他人の問題を自分の問題とするなかで、本質をつかみ団結して、子どもたちの未来のために頑張ろう。

感想

会場は、長野県を始め、多くの学校図書館の実践がまとめられたポスターで埋め尽くされ、楽しそうな子どもたちの育ちを支える活動が生き生きと伝わり、多くの人に参考になったことと思う。また、こういった機会でなくては手に入れられない資料や実践集などの出版物が用意されていたが、どれもすぐ完売になっていた。

第 3 回日本図書館協会九州地区図書館の集い「子どもでつながる、未来とつながる；学校図書館、公共図書館、大学図書館の連携とその可能性」 参加報告

兵庫県立西宮今津高等学校 司書 鈴木啓子

日時：2010年1月31日（日）10時～16時

会場：福岡県立図書館

**基調講演「子どもの生きる力と図書館」
 塩見昇氏（日本図書館協会理事長）**

塩見氏の講演は、生きる力と図書館をテーマに、図書館の教育力についてであった。最初に前置きとして、「生きる力」の受け止め方を説明した。ユニセフの調査で日本の子どもの29.8%が「孤独を感じる」と回答、他国より突出して多く、生きにくい幸せではない状況がある。「生きることは教えることはできない。生涯かけて自分で見つけだすものである。」と『君たちはどう生きるか』（吉野源三郎著、岩波文庫、）の文中を紹介した。「生きる力を子どもたちにどう教えるかは重たい。教えるのに謙虚さが必要」と言われ、「謙虚さ」が心に響いた。

次に、「生きる力」についての経過を説明した。「生きる力」の言葉が出てきたのは、1996年の中教審答申からである。ゆとり教育・総合的な学習の時間の設置があった後、

読解力などの低下からゆとり教育が見直される。見直しと言いながら、「生きる力」は残している矛盾がある。

子どもの学びと育ちにおいて、1996年の中教審答申で教え込む教育から自ら学び自ら考える教育に転換した。自ら質のいい「問い」をもつことで、学ぶことが始まる。「どうして、なぜ」の原点は、19世紀末に教育学者エレン・ケイが著書『児童の世紀』（1979年、富山房百科文庫）で学校教育を批判、個性尊重、自発性の重視を述べている。「子どもの自主性・自発性を信じること。その芽を摘まない。正解を求めすぎない。」と述べた。待つこと見守ることの大切さを再認識した。また、子どもの学びに必要なことは、「子どもの豊かな生活経験であり、生活経験がなければ子どもが生きることに楽しさを感じない。」とも述べた。経験と知識が結びつくようにどのように取り組んでいくか、考えないといけないと感じた。

後半、人が生きるということに図書館が

どのような教育力をもっているか述べられた。塩見氏の著書『教育を変える学校図書館』（塩見昇編著、風間書房）から7項目をあげて、説明した。学校図書館にかかわらず、すべての図書館に共通するものである。以下がその項目である。

1. 知的好奇心を刺激する多様な学習資源の選択可能性
図書館の特質は、子どもが自ら学ぶことができることである。読者自身が自分で選ぶもので、強いると図書館でなくなり、大事なものを殺してしまう。
2. 体系的、組織的なコレクションの存在
図書館の蔵書がブックガイドになっている。ブックセレクトは、この1冊を加えることで蔵書総体が豊かになるか、その蔵書が持つ位置の理由が見つければよく、良書を置くことではない。系統的に学んでいく素材があり、自ら学んでいくものである。
3. 個別の要求、ニーズに即したサービスとしての相談・援助の営み
利用者にとってふさわしい本を紹介する。そこには、紹介する専任の専門家がいたことが大事である。
4. どこまでも所要のものを探求できる組織性(ネットワーク)の具備
利用者に限界を感じさせてはいけない。協力・連携で図書館総体が一人ひとりを保証する母体となる。
5. 資料・情報のコントロール、再構成、そして発信
資料・情報に付加価値をつける。ブックリスト、ブックガイドを作り出す。
6. 知的自由、プライバシーの尊重

一人ひとりに知る権利があり、読むことが干渉されない。教師も踏み込んでではない部分があることを知る必要がある。

7. 学び方、学ぶ力(リテラシー)を身につけた生涯学習者の育成

図書館がもっている大きな意義である。自分の行動を責任をもって判断できる人が生涯学習者となる。

この本は読んでいたが、図書館の役割が著者自ら詳細に聞けて、参加した甲斐があった。

最後に、図書館の連携した力として、生涯学習という観点から学校図書館に公共図書館や大学図書館が強い関心をもつことの大事さを述べられた。図書館である一点において手をつないで他館の資料も資料の一部として認識する。図書館利用教育を行っている大学が多いが、学生が小・中・高から積み上げた大学の基礎となるような図書館を利用した体験をすることは、大学にとっても関連する。公共図書館は、図書館を使う市民を学校が育てることで、関連する。図書館を使うことでよりよく生きようという教養をもった市民を育む学校教育は、そういう生き方に責任をもつ。

「生きる力」は、あまり使いたくないと思っていたが、今回の講演を聴いて、きちんと解釈できてよかった。図書館が教育にとってどれだけ重要かを再確認できた。

報告「福岡県の学校図書館の現状」

次に有川公一氏（福岡県学校図書館協議会会長）から福岡県の学校図書館の現状の報告があった。司書教諭の授業軽減は少な

く、小中学校司書の配置が約 50%で、非正規が多い。司書教諭と学校司書の重要性や学校図書館の果たす学習・情報センターとしての役割の認識が不十分であると説明した。

パネルディスカッション「子どもでつながる図書館とその活動」

パネリストは、全国学校図書館協議会理事長の森田盛行氏、鳥取県立図書館支援協力課長の小林隆志氏、九州国際大学准教授の安藤友張氏、小郡市立三国中学校長の柏木和治氏である。

森田氏は、成果を見せていかないと社会は理解してくれないと実践とロビー活動の重要性を説明した。

小林氏の話は、日本図書館協会学校図書館部会中国ブロック集会のときに聞いたが、やはりパワフルだった。県立学校図書館との連携は有名だが、県立学校に本を管理できる司書がいるので、県立図書館の貸出禁止の本も貸すし、教師に図書館に目を向けてもらうために、県立図書館で借りた本を自校図書館で返却できる。学校図書館に 2 日以内で本が届くのには驚いた。県立図書館は「何を支えるのか」では、「司書にいてもらわなければ困ると言ってもらおうこと」と明解である。

安藤氏は、LIPER 2 の研究協力者で、図書館職員について述べた。雑誌「週刊東洋経済」（東洋経済新報社）の間違った学校図書館職員の記事をあげて、一般的に学校図書館職員が理解されていないことを指摘した。専門職の定義は、自立性、つまり専門的判断について指示を受けないことだそう。図書館職員の話をもっと聞けるのか

なと思ったが、あまりなかったのが残念だった。

柏木氏は、自校中学校と小郡市立図書館の連携について説明した。学校図書館に関心を持ったひとつは、鶴岡市立朝陽第一小学校を見学したことだそう。小郡市長は、読書量日本一を掲げているそう。それを聞いて「う～ん?!」と思った。

質疑応答で教育力が生かされる要件について質問が出た。塩見氏は、「日常的なサービス活動の蓄積（サービスを担うスタッフがいることが前提）、教師の図書館活用経験、現場がつくる教育実践」をあげた。

また、図書館の人が小林氏に新たな事業に取り組もうとする際の成功の秘訣を質問した。小林氏曰く、「できない理由を探さない。職場内に敵を作らない。先導する人間がちゃんと先導する。全館体制で進めることを考える（すべての合意ではなく、各課に役割があることが重要）。よく飲んでよくしゃべる（コミュニケーション）。」である。「できない理由を探さない。」といわれ、背筋が伸びた。

パネルディスカッションは、何か物足りないと思って考えると、「子どもでつながる図書館とその活動」というテーマだったのに、パネリストが各々言いたいことを話していたという印象であった。それに、森田氏や安藤氏が実践の成果を目に見えるようにすると述べていたのに、パネリストに学校図書館職員がおらず、実践報告もなかったのが理由だった。

（学校図書館問題研究会兵庫支部報 NO. 272 からの転載許諾を得ています。）

6 . 幹事会からのお知らせ

人事異動、転居、**改姓された方は gakutobukai@jla.or.jp**
へご一報下さい。

幹事会はどなたでもご参加いただけます

学校図書館部会は、幹事会を開いて様々なことを話し合い、運営しています。幹事会には、学校図書館部会員であればどなたでもご参加頂けます。

2010 年度第一回は5月22日(土)日本図書館協会で午後4時から5時を予定しています。

幹事会記録は <http://www.jla.or.jp/school/index.html> で公開しています。

ホームページ開設のお知らせ

学校図書館部会ではホームページを開設しています。日本図書館協会のホームページから開くことができます。 <http://www.jla.or.jp/school/index.html>

学図部会メーリングリストへ参加して下さい

学校図書館部会では、部会運営を部会員の皆様に開かれたものとし、また、皆様からの意見を部会運営に生かすために、メーリングリストを開設しております。部会員であればどなたでもご参加頂けます。

幹事会の記録や要望書などの第一報が読めます。

参加ご希望の方は、下記連絡先または部会メールアドレス (gakutobukai@jla.or.jp) 宛にご連絡下さい。

参加にあたっては、(1)氏名(本名)(2)日本図書館協会の会員番号(図書館雑誌の宛名ラベルに記載されています)(3)所属(ない方は不要)(4)メールアドレス をお知らせ下さい。提供頂いた個人情報は当部会「個人情報保護方針」(JLA学校図書館部会ホームページ参照)にもとづき管理いたします。

メーリングリストへの投稿について(お詫びとお願い)

投稿してすぐにUPされない場合は、お手数ですが再度投稿して下さい。未着の連絡がないけれど、Yahoo「グループ」(メーリングリスト管理)にも到着していない場合があります。

学校図書館部会では皆さまからのご意見・ご提案を募集しています。

下記までご意見や「会員の広場」への原稿をお寄せください。

連絡先：〒252-0318 神奈川県相模原市上鶴間本町6-7-3-303

Te l 042-743-1449(ファクシミリ共) E-Mail : gakutobukai@jla.or.jp

高橋恵美子